

暁鐘の音

52

一生懸命

一生懸命 本来、これは美徳なのだろう。

明治以来この国の国民は、「一生懸命」にやってきた。列強に飲み込まれまいと、新政府の人達は必死だった。維新の真最中に、岩倉具視を团长として明治の主役たちによる「米欧回覧使節団」が二年近くも国を留守にしたというのは、それだけ必死だった証拠である。隣の清国に於ける列強の展開を目的に於いて、戦わずして互す方法を模索するしかなかった。戦えば負ける。負ければ占領される。占領されないためには戦わないで済ませることである。

日露戦争後のロシアとの講和も、時

政治家たちは国の存亡を懸けて必死に対応した。戦勝に浮かれた国民の非難を浴びながらも、ロシアの底

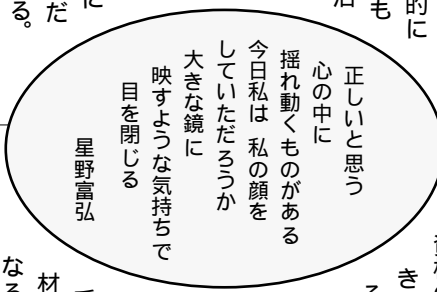
力を知っていた政府の関係者は、それこそ外交に命を懸けた。ロシアとの戦争に勝つたとはいえ、これはあくまでも局地戦であり、ロシア自体が西を向いていたという事情も幸いしたのであって、本格的に

ロシアと戦っては物量とにも覚束ないことは時の政治家たちには分かっていた。

それに目的は維新当初からの課題であるロシアの南下を食い止めることにあつた。政府はウラジオストツクまで下りてきたロシアが、朝鮮半島に入ることを恐れていた。だから講和を急いだのである。

講和が成立したとき、政府の責任者たちは、抱きあって涙を流して喜んでいただけを、ある料亭の女将が証言している。

第二次時大戦後の復興も。朝鮮戦争の神風が吹いたとはいえ、或いは米国の対日本政策の方針転換があつたとはいえ、まさに一生懸命だった。資源が乏しい上に、戦争で多くの人材を失い、更には財閥解体や



正しいと思う
心の中に
揺れ動くものがある
今日私は私の顔を
していただろうか
大きな鏡に
映すような気持ちで
目を閉じる

星野富弘

「GNP」の尺度も、この小さな国に勇気を与えた。全てを経済活動に結びつけばGNPは膨らむ。それは欧米の国々と付き合うための會員資格のようなものだった。

きつと仲間に入れてくれると信じて、ひたすら「GNP」を追い求めた。自分の畑で獲れたものを自分で消費するよりも、それを商品として売って、別に自分が消費するものを買えば、

手元に残るのは同じ食材でもGNPは二倍になる。もちろん、その間、貨幣が流通することで多くの人の手元に色々なものを残していくが。

道路も、何度も同じところを掘っては埋めているかぎりGNPはどんどん膨らむ。だがそこには相変わらず狭くて継ぎ当てだらけの道路が一本あるだけである。建築物も建ててから二年経ったといつては壊してまた建てる。その分間違いなくGNPは膨らむ。だが、そこには以前と少し

ばかり色々形の違う建物が一つあるだけである。おそろく、今後予定されている四 兆円超の公共投資も、その大部分はこのようにして経済成長率を上げるために使われていくだろう。

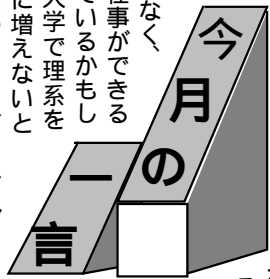
この国は確かに一生懸命やってきた。だが今のシステムは、独楽のよつに回転し続けていることを前提としていないか。その独楽の回転が減速すれば、効率よく回っていた貨幣も沢山の人の手元を素通りしてしま

「スペシャリストはもう通用しない。これから、さまざまな能力者をまとめ、仕事を推進していくことのできる人間、すなわちプロジェクトマネージャーが活躍する時代だ」 井深大

スペシャリスト 実に響のいい言葉である。学校を出たばかりの若者が憧れるのも無理はない。もしかして、現代的な「技術者」「職人」のイメージがあるのかもしれない。「それなりの腕」を持っていて、誰からもこき使われることなく、自分の考えるままに仕事ができる人」なんて考えられているかもしれない。もっとも、大学で理系を選択する学生が未だに増えないところをみると、また別のイメージを持つているのかもしれないが。何れにしても、井深氏はスペシャリストで通用する時代は過ぎたという。スペシャリストは一杯いると言つのである。だがスペシャリストが何人集まってもプロジェクトは動かない。技術者として自分の

うことになる。「戦後五年」を迎えて、今後この国は世界の中でどんな役割を担おうとするのか。今までのように財布をちらつかせるようなやり方で通用するとは思えない。

本来なら、この問題で今ごろはマスコミや出版界が、もつと騒いでいるだろうと予想したのであったが、サリンやオームによって全部吹っ飛んでしまったようだ。この半年の浪費は、あとで請求書が回ってくる様な気がする。



役割をこなすことは出来ても、「こころ」といつときに決断が出来ない。スペシャリストがそれぞれ立ち場を自己を主張するため身動きが執れなくなるのである。

それよりも、プロジェクトを興せる人、動かせる人が求められている、と言つのである。必要なら、スペシャリストは世界から集めればよい。だが集めることが出来ないのはプロジェクトマネージャーである。自分のビジョンを持って、気難し屋の多いスペシャリストを動かし、プロジェクトを進めて行く人。そのような人は、単に与えられた仕事をこなしているだけでは到達しない。会社を「自己実現の場」と考えられなければ叶わないだろう。